

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：34503

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20062

研究課題名（和文）豊臣政権における奉行の知行地支配に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research on the magistrate's control over the Territory under the Toyotomi government

研究代表者

石畑 匡基（Kokuhata, Masaki）

大手前大学・国際日本学部・講師

研究者番号：20964828

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、大谷吉継や寺沢広高のように豊臣政権において奉行をつとめた大名が発給した文書を収集し、彼らの知行地支配の特徴を分析した。当該期において発給された文書の多くが活字化されているが、未活字史料に関して史料保存機関に訪問して原本調査を実施した。上記の調査によって収集した古文書に関して発給者ごとに目録を作成した。さらに、その目録を分析することで豊臣奉行それぞれの発給文書の特徴に言及した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、未活字史料やこれまで紹介されていなかった豊臣奉行の発給文書を見出すことができた点に意義がある。また、大谷吉継に関しては実名や通称の利用に関する新知見を提示するとともに、史料集などに未収録の古文書を新たに見出すことができた点に意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this study, we collected documents issued by feudal lords who served as magistrates in the Toyotomi government, such as Yoshitsugu Otani and Hirotaka Terazawa, and analyzed the characteristics of their control over the territory. Although many of the issued documents have been put into print, we visited historical archives to investigate the originals of unprinted historical materials.

研究分野：日本史

キーワード：豊臣政権 大谷吉継 寺沢広高 豊臣奉行 古文書

## 1. 研究開始当初の背景

近年、豊臣政権をめぐる研究の進展は著しい。その背景には、豊臣秀吉など当該期の主要な大名の居所や動向が解明されるとともに、発給文書集の刊行があげられる。その一方で、政権運営の実務を担当した奉行である豊臣奉行らの動向は未だに不明な部分が多い。さらに、彼らは政権運営の実務担当者という側面だけでなく、大名として自身の知行地を保有し、その支配も担っていた。ところが、秀吉の居所である大坂城や伏見城に常時詰めていたとみられる豊臣奉行の領国支配に関しては、これまであまり注目されてこなかった。

豊臣政権期の大名の特性を分析する成果も出されつつある(光成準治「織豊大名論」)。ところが、それらの成果は戦国大名から豊臣政権に服属した大名を対象としたものが多く、秀吉直臣といえる豊臣奉行を対象とするものは石田を除くと不十分な現状といえる。

近年、これらの点が問題視され、著名な豊臣奉行である石田三成、京都所司代を務めた前田玄以を取り上げ、発給文書の収集・分析といった基礎的な研究が進められている(伊藤真昭「前田玄以発給文書集成」、谷徹也「石田三成発給文書目録稿」など)。

しかしながら、豊臣政権の運営に関わった大名は石田・前田だけではない。全国統一を果たした豊臣秀吉は、様々な奉行を中央に詰めさせるとともに、各地に派遣しているものであり、豊臣奉行の特性を語るためには検討対象が未だ不足しており研究の余地があるといえよう。

したがって、豊臣奉行の発給文書を網羅的に収集し、豊臣奉行の家臣団と知行地支配との特徴を解明したい。検討対象としては、豊臣秀吉死後における政権の実務を担った、いわゆる「五奉行」を石田・前田とともに務めた増田長盛・浅野長政・長束正家とする。さらに、比較対象として、石田・増田とともに豊臣秀吉による「唐入り」の実務を担う「朝鮮三奉行」を務めるなど政権中枢で当初活躍したが「五奉行」には選出されなかった大谷吉継と、豊臣政権における北部九州支配の中心となった「長崎奉行」を務めた寺沢広高に関する検討対象とする。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、豊臣政権による支配の実務を担う奉行として活動した大名(以下、奉行大名)が有した知行地支配の特徴を明らかにし、政権運営に関わった大名の特性を究明することにある。その学術的独自性・独創性は、以下の3点に代表される。

### 発給文書の収集と編年作業

本研究で取り扱う豊臣奉行の発給文書を網羅的に収集したうえで、名乗り・通称・花押型の変遷に加えて、これまでの研究で軽視されて書止文言や料紙など古文書学的な分析を加える。このような成果はこれまで出されておらず、独自性を示すことができると考えている。

### 豊臣奉行の家臣団の特定及び役割への言及

本研究で取り扱う豊臣奉行(増田・浅野・長束・大谷・寺沢)の家臣を特定する作業については、浅野・大谷では言及する成果もみられる。しかし、豊臣奉行が知行地不在時の家臣の役割に着目したうえで、知行地支配の特性に言及した成果はこれまで出されていない。さらに、家臣の軍事的な側面についても言及することで独自性が高まると考

えている。

#### 知行地支配の分析と比較検討

の成果から豊臣奉行の知行地及び城郭支配について明らかにする。その成果を、研究蓄積の多い石田三成のそれと比較検討する。さらに、戦国大名から豊臣政権に服属した大名とも比較検討することで、奉行としての豊臣大名の特性を明らかにしたい。

豊臣政権の諸政策を推進する豊臣奉行の知行地支配の特性には、豊臣政権として全国支配の根幹が現出すると推定している。ゆえに、本研究の成果は豊臣奉行の研究だけでなく、豊臣政権研究自体を大きく前進させることにつながると考えている。

### 3．研究の方法

#### 刊本及び史料収蔵機関への調査による発給文書の収集・分析

豊臣奉行の発給文書を網羅的に収集した。まず、史料集や自治体史などの刊行資料から、それぞれの名乗り・通称・書止文言・宛所などを立項した目録を作成した。そして、東京大学史料編纂所や大阪城天守閣・京都大学附属博物館・山口県文書館といった史料収蔵機関に赴いて、未刊行史料とともに、刊行資料の花押型や料紙といった原本情報を目録に収録した。

### 4．研究成果

本研究では、未活字史料やこれまで紹介されていなかった豊臣奉行の発給文書を見出すことができた。

特に、研究報告「豊臣奉行発給文書の基礎的研究」において、大谷吉継に関しては実名や通称の利用に関する新知見を提示するとともに、史料集などに未収録の古文書を新たに見出すことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石畑匡基	4. 巻 17
2. 論文標題 もりおか歴史文化館収蔵「御預人」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大手前大学史学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石畑匡基	4. 巻 19
2. 論文標題 黒田騷動における栗山大膳の意識と南部家への「御預」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 市史研究 ふくおか	6. 最初と最後の頁 82-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石畑匡基	4. 巻 18
2. 論文標題 備中松山藩領における寺院所蔵御根小屋登城史料	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大手前大学史学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石畑匡基
2. 発表標題 なぞとき毛利元清
3. 学会等名 下関市立歴史博物館企画展記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石畑匡基
2. 発表標題 豊臣奉行発給文書の基礎的研究－大谷吉継発給文書を中心として－
3. 学会等名 第26回大手前比較文化学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関